

芸術の秋に史跡・名勝を描く

10/6 宮島写生大会開催

厳島神社や町内の史跡・名勝を題材とする、宮島写生大会が開催されました。子どもから大人まで計319人が参加し、皆さん思い思いの場所を選んで、画用紙と向き合っていました。

参加した國芳渉さんは「島内を巡りながら、一番気に入った画角から描いた。楽しく描けてよかった」と話してくれました。

入選した作品は厳島神社の廻廊やゆめタウン廿日市に展示されます。



▲描いた絵を披露する様子

未来へつなぐ食文化をテーマに

10/20 学校給食フェスタを開催

大野学校給食センターとフジタスクエア まるくる大野で「学校給食フェスタ」を開催しました。10月に学校給食で提供された「10月の味噌汁」や卵を使わない「にんじんケーキ」の試食提供、「食育ミニ講座」、「和食のマナー講座」、「魚を使った学校給食レシピの調理実習」や「骨密度測定」、「給食に関する展示」など。学校給食フェスタでの体験を通して、子どもも大人も楽しみながら食文化に関する理解や関心を深めました。



▲移動式煮炊き釜で作った「10月の味噌汁」の試食の様子

オールはつかいちで子育て応援

10/21 市内経済団体と協定締結

「このまちで働きたい」と若者・子育て世代に選ばれることを目指して、「こどもが主役のまち はつかいち宣言」事業実施に関する連携協定を結びました。締結式で、廿日市商工会議所は「廿日市で働きたくなるような事業に取り組む」、佐伯商工会は「子育て世代に愛される古里地域づくりを推進する」、大野町商工会は「こどもが主役を常に心がける事業者を育成する」、宮島町商工会は「宮島学園と連携し職場体験を実施する」と宣言しました。



▲協定締結を機に取り組んでいきたいことを宣言しました

手作りの茶菓子とお茶でおもてなし

10/31 文化活動発表会で「お茶会」開催

廿日市中学校の茶道部の皆さんが文化活動発表会の一環で、お茶会を開催し、保護者や生徒、先生にお茶と茶菓子を振る舞いました。学年全員から茶菓子のデザイン案を出してもらい、その中から「和洋菓子ながお」の永尾洋行さんが選定し、作り方を教わり、部員の皆さんが作ったものをお茶会で披露するという企画で、今年5月から準備を進めてきました。部長の原田七愛さんは「今日のために頑張ってきた。茶菓子を作るのは初めてで、あんこがはみ出ないように作るのが難しかった。今日で部活を引退するが、たくさんの人にお点前で良かった」と話していました。



▲部員の皆さんは、浴衣を着て、心を込めて作った茶菓子とお茶でおもてなしました

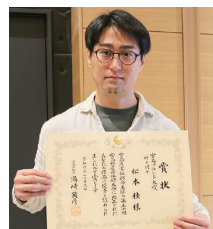


▲秋らしい金木犀のデザイン

第50回宮島特産品振興大会記念

11/3 宮島細工の匠展

e t t o 宮島交流館で「宮島細工の匠展」が開催されました。第50回宮島特産品振興大会で広島県知事賞を受賞した松本桂さんの「時々刻々」(宮島ロクロ)、廿日市市長賞を受賞した対厳堂の「宮島御砂 鉄紋壺」(宮島御砂焼)をはじめとする、7種約250点の作品が展示されました。また、同会場では、宮島小学校5年生が伝統工芸士の太田浩さんと沖田要さんから指導を受け、製作した宮島彫りの作品も展示され、初日から多くの来場者でにぎわいました。



▲松本桂さん



▲対厳堂さん



◀「時々刻々」。「契り」の技法で2枚に分かれた木を繋ぎ合わせ、人と神の世を繋ぐ宮島に見立てている



◀「宮島御砂鉄紋壺」。広島県知事賞を受賞した。宮島県産のベンガラを使用し、朱の大鳥居の色合いをイメージし、宮島の海と山を表現

目の不自由な人などのため

■音声読み上げのための「広報はつかいち」テキスト版・

■「広報はつかいち」のテキスト版・点字版があります。

お問い合わせ 社会福祉協議会 ☎0829-0294